

第 25 回医療薬学公開シンポジウム開催報告

九州大学薬学部
樋口 駿

平成 18 年 11 月 23 日(木)勤労感謝の日に、福岡大学薬学部(16 号館)1641 講義室において、日本医療薬学会主催、福岡県病院薬剤師会および福岡県薬剤師会共催で「第 25 回医療薬学公開シンポジウムー薬学 6 年制教育の充実に向けてー」を開催いたしました。朝から雨というあいにくの天気にもかかわらず 228 名(病院薬剤師 109 名、保険薬局薬剤師 57 名、薬学部関係者 48 名、その他 14 名)の参加を頂きました。平成 18 年度より薬学 6 年制教育が実施され早期体験学習が既に始まっています。これから 4 年次には CBT や OSCE を経験した学生が長期実務実習を行います。高度で複雑化した薬物療法に対応するため、チーム医療の中で活躍できる質の高い実践的薬剤師を薬学 6 年制教育で育てる必要があります。薬学 6 年制教育の充実には、薬科大学・薬学部ならびに医療現場である保険薬局薬剤師、病院薬剤師の先生方が情報を共有することが大切です。今回、それぞれの立場から講演をいただきました。

薬学部からは、講演 1 で熊本大学大学院医学薬学研究部教授の入江徹美先生に「薬学共用試験 CBT・OSCE の準備状況」ということで、6 年制薬学教育における薬学共用試験の準備状況および課題について紹介いただきました。講演 2 では、福岡大学薬学部教授の片岡泰文先生に「薬学部における実務実習事前学習」ということで、事前学習が薬学部にて、約 1ヶ月間、4 年次に調剤および製剤、服薬指導などの薬剤師職務に必要な基本的知識、技能、態度の修得を目指して行われる話をしていただきました。福岡大学薬学部では、「実習」はシミュレートではあっても具体的な技能習得活動として捉え、「演習」は代表的な症例・処方例、事例、医薬品例を課題とした自己主導型・グループ共同型学習により実施される PBL 型活動との説明がありました。講演 3 では、福山大学薬学部教授の吉富博則先生に「長期実務実習モデル・コアカリキュラム方略案を実現するための問題点」ということで、中国・四国地区では、方略の検証を目的とする病院と薬局実習のトライアル(計数調剤部分のみ)を実施し、方略記載の順序では実習できない、90 分 1 コマの考え方は、業務形態と合わない、スケジュールアップに時間がかかることを報告していただきました。また、設定された到達目標は基本的には合理的で実際の業務を整理したもの大きくは変わらないとの評価であったとの講演をいただきました。

つぎに医療現場から講演がありました。講演 4 では、九州大学病院薬剤部長の大石了三先生に福岡県病院薬剤師会会長の立場から「病院における長期実務実習教育ー組織としての準備状況」ということで、福岡県での病院実習は調整機構により具体的に実習学生が決定すれば、4 地区毎に調整により実習施設が決定することについてこれまでの経緯も含め、準備状況、今後の課題について講演いただきました。講演 5 では、福岡徳洲会病院副薬剤部長の今給黎 修先生に「病院における長期実務実習教育ー長期実務実習プログラムの構築と現場から見えてくる問題点ー」ということで、実務実習モデル・コアカリキュラムに準じて大学院生の長期実習を受けるに際し新人薬剤師教育手順書をベースに実習プログラムの構築を試みたという講演をいただきました。講演 6 では、(社)福岡県薬剤師会常務理事の三浦公則先生に「保険薬局における長期実務実習教育ー組織としての準備状況ー」ということで、薬局における認定実務実習指導薬剤師の養成は 1 万人を目標として、調整機構・機関と協力して、平成 20 年 4 月を目処におよそ 7,000 の受入薬局のリスト化を行い、平成 22 年 4 月までに指導薬剤師の養成を行いつつ整備を図る内容の講演をいただきました。講演 7 では、(社)福岡市薬剤師会常務理事の満生清士先生に「保険薬局における長期実務実習教育ー現場の準備状況ー」ということで、福岡市薬剤師会における実習受入薬局数は 166 薬局、指導薬剤師数 305 名で、現在大学側へ薬学生

への指導経験を積むために薬局実習の機会を増やしていただくよう要望しているとの講演がありました。

薬学部においては、早期体験学習や薬学教育モデル・コアカリキュラムに沿った講義(特にヒューマニズム・倫理等)が始まり、一方、全国組織の共用試験センターも組織され、CBT や OSCE のシステム整備・トライアル実施にもムチが入っています。本シンポジウムには遠くは関東からの参加があり、また参加者から薬学部6年制教育の充実に向けてこれからお互い何をしなければいけないか光が少し見え、不安に思う前に具体的にはまずトライアルを開始することが示され、薬学6年制教育の充実に向けてすばらしいシンポジウムであったとの多くの意見をいただき、大変有意義なシンポジウムとなりました。

日本医療薬学会 第25回医療薬学公開シンポジウム 「薬学6年制教育の充実に向けて」

主催：日本医療薬学会
共催：日本医療薬学会
開催日：平成18年11月23日(木、勤労感謝の日) 13:30～16:30
会場：福岡大学薬学部 1641 講義室
〒814-0180 福岡市城南区七隈8丁目19-1
参加費：500円(会員, 非会員) 情報交換会費:4,000円
オーガナイザー：樋口 駿(九州大学薬学部 薬物動態学)

◎ プログラム

12:30～ 開会挨拶

13:30～ 開会の辞 九州大学薬学部 樋口 駿

13:35～14:00 講演1

九州調整機構ならびに大学の CBT・共用試験の準備状況
熊本大学薬学部 入江 徹美

14:00～14:25 講演2

薬学部における事前実習教育
福岡大学薬学部 片岡 泰文

14:25～14:50 講演3

長期実務実習モデル・コアカリキュラム方略案を実現するための問題点
福山大学薬学部 吉富 博則

休憩 15分

県病院薬剤師会の立場から

15:05～15:25 講演 4

病院における長期実務実習教育—組織としての準備状況—
福岡県病院薬剤師会 大石 了三

15:25～15:45 講演 5

病院における長期実務実習教育—現場の準備状況—
福岡徳洲会病院 今給黎 修

県薬剤師会の立場から

15:45～16:05 講演 6

保険薬局における長期実務実習教育—組織としての準備状況—
福岡県薬剤師会 三浦 公則

16:05～16:25 講演 7

保険薬局における長期実務実習教育—現場の準備状況—
福岡市薬剤師会 満生 清士

16:25～16:30 閉会の辞 福岡県薬剤師会 小田 利郎

お問い合わせ先:福岡大学病院 二神幸次郎

(TEL:092-801-1011 内線 2213, FAX:092-862-8800)

本シンポジウムは

日本医療薬学会・認定薬剤師資格更新研修単位 10 単位

日本病院薬剤師会・生涯研修認定 2 単位

日本薬剤師研修センター集合研修単位 2 単位

の各認定対象です。